

上州文化

contents

	希望 / 小見輝夫	②
特集	世界に二つの縁切寺 / 高木 侃	③
	上野東歌探訪 / 北川和秀	⑦
	(財)群馬県教育文化事業団高等学校等奨学金制度紹介	⑪
	熊野古道を歩く / 樽井 哲	⑪
ART NOW	伝統について - 思いつくままに - / 川隅俊郎	⑫
	カノエの隅から さくらめーる / 竹田朋子	⑭



津久国人形の里寺 福増寺





希 望

(財)群馬県教育文化事業団 理事長 小見輝夫

皆様には、本誌「上州文化」をご愛読いただき、有り難うございます。お陰様で長年にわたり多くの皆様に愛され、親しまれてまいりました。ここに、あらためて感謝を申し上げます。

私たち事業団は、昭和五十五年に設立されて以来、公益法人として地域の特色ある文化を掘り起こし、個性豊かで創造性に富む上州の文化づくりを進めるための事業を行ってきています。本誌の発行はこれらの広報・普及活動の大事な一つです。

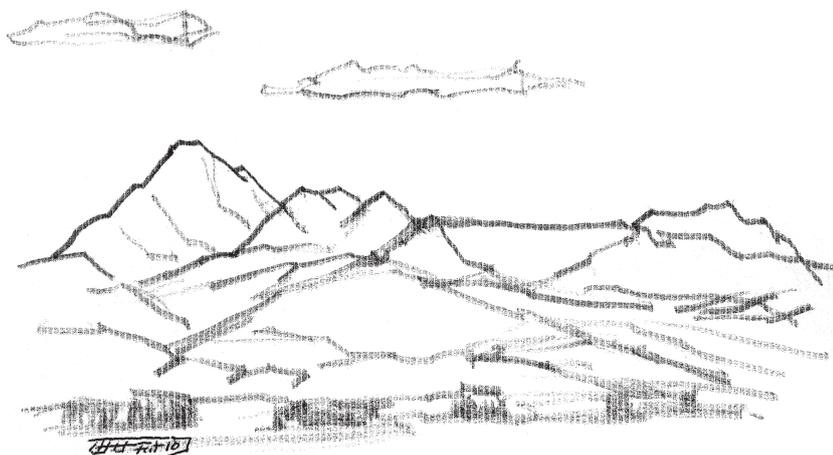
さて、最近の話題について、少し触れてみたいと思います。

昨年は群馬県民会館の次期指定管理について公募に応じ、全力で取り組んできました。幸い、これまで同様二十三年度から五年間の指定を受けることが出来ました。私たち事業団にとって、単なる施設の管理に留まることなく、一歩進んで県下の文化発信の拠点施設として如何にその機能を発揮していくことが出来るか、まさにそのことが真価の問われるところと考えます。

また、今年は何ととっても公益法人制度改革への取り組みが大きな課題です。新しい理念のもとでの改革であり、将来を見据えた適切な対応を図っていくことが必要です。事業団存立の原点に立ち返り、あるべき方向を見定め、より公益性を高め、更なる社会貢献に繋がる取り組みをしていきたいと考えます。

ところで、昨年の冬、良いニュースを耳にしました。それは、群馬県において文化振興に関する基本条例の制定が検討されているとのことでした。これは素晴らしいことだと即座に感心した次第です。是非とも本県にふさわしい条例の制定を期待しています。そして、名実ともにこの条例を核として広く一般県民に「文化」というものを再認識していただくことや、行政の役割・使命、更には私たち文化関係団体の係わり方や意義など、様々な角度から県民視点に立った実際的で親しみやすい条例の誕生を願っています。また、このことが文化振興の県民運動として大きく発展していく原動力になって欲しい、と期待は大きく膨らみます。

閉塞感漂う今の世にあって、人々の心をうるおす新しい時代の幕開けとなるか。春を告げる落の芽吹きに思いを馳せつつ、「文化」の確かな躍動の高鳴りに心静かに耳を澄ます昨今です。



世界に二つの縁切寺

縁切り現代版としての「縁切り・縁結び厩」

— 平成の満徳寺 (2) —



専修大学教授・
縁切寺満徳寺資料館館長
高木 侃

入館者増への取組 — 巨玉の必要性 —

資料館をとりまく状況は、ただ建設すればよいというほど、安易なものではありません。それに当館は最寄駅・東武伊勢崎線世良田駅から徒歩四十分というアクセスの悪さです。ほかの町村の資料館も展示等にかんがりの創意・工夫と努力をされていますが、五、六千人の入館者に止まっていること（富弘美術館を除いて）を考えたとき、なにか入館者の興味をひく目玉が必要だと長いこと思案していました。

時期は覚えていないのですが、全町史跡公園化構想のなかで、満徳寺の復元計画が検討されている時期に、教育委員会に御礼の手紙が届きました。それは不法・乱暴な夫に苦しめられ、十数年来別れようとして別れることが出来なかった妻が、夫との離婚に一縷の望みを託して、かつての満徳寺本堂（縮小して三度移築されたもの）を訪ねたそうです。無檀家で、廃寺して後は、区の集会所として使用されていましたから、普段は当然のことカギが閉まっています。開いていません。そこで自分の身代わりとして人形を床下に放り込んで、外からお願いで帰ったそうです。そうしたら、二ヶ月もしない内に夫と円満に別れることができたというのです。お札に三千元が同封され、記念館でも建設の時には、その一助にして欲しいと書き添えてありました。「これだ」と心中に快哉を叫び、同時に現代版縁切りの有用性を確信したのです。

縁切り俗信 — 関東と関西 —

私は江戸の離婚研究をはじめた当初から、縁切り

と名がつけば何でも収集、あるいは現地に見学に出かけていたものです。関東で、見て周った処では、有名な板橋の「縁切り榎」、県内では太田市菅塩町の「縁切り観音」（最近建て替えられました）、明和町南大島の「入定（死）様」、高崎市下小島町の「縁切り葉師」、また栃木県足利市の「縁切り稲荷」などがあり、夫婦背中合わせの図柄の絵馬、あるいは握りばさみを奉納して、縁切りの祈願をしました。



縁切り観音に奉納された絵馬

また江戸時代の文献『浪華百事談』には、「離縁厩」と題して、つぎのような記事があります。

今は有かなきか知らねども、或人の云へる、持明

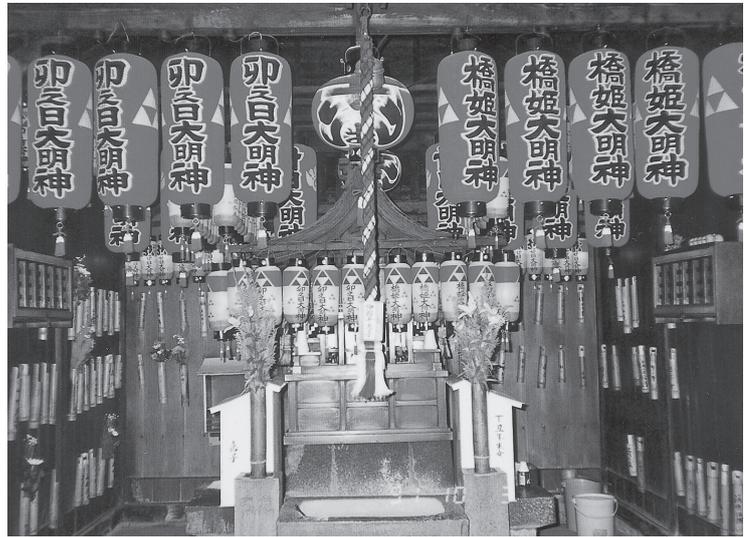
院の本堂のほとりに廁ありて、其内に入りて離縁を祈れば、必ずや縁きれると聞、不審き事と思ひ居しが、其後ち又、京師の人の話に、同様のもの、洛東音羽山清水寺の本堂と、奥の院との間に有りと云ふ。是は廁式個所ならび建て、其一方の内には離縁を祈り、又一方は縁結びを祈れば、かならず何れも叶へりとぞ。希有なるものも有ものなり。

すなわち、大坂の持明院、京都の清水寺には、「離縁廁」があつたということです。

大阪・京都の縁切り廁

もともと「廁」は便所のことです。ですから持明院の「離縁廁」ももとは便所だったのかもしれないが、現在はやや小ぶりな社やしろです。入口からむかつて、左側に縁結びの神「卯之日大明神」、右側に縁切りの神がちょうど背中合わせに祀られています。縁切りの祭神は「橋姫大明神」です。橋姫とは山城国宇治橋のほとり、夫を寝取られて嫉妬のために逆上し、顔やからだに丹（赤い色）を塗って、宇治川に身をひたして、ついに鬼女になったという伝説の女のことです。なお、持明院における縁結びの縁日は、祭神にちなんで卯の日、縁切りの縁日は巳の日となっています。余談ですが、この橋姫伝説によつて、二道かける浮気な夫に嫉妬・逆上して、相手の女もろともに呪い殺そうとする妻を主人公にした能「鉄輪かねわ」があり、鬼女となった後シテは「橋姫」の面をつけます。

京都の清水寺には、昭和三十年頃まで本堂と奥の院の間に、文字通り「廁」が二つ、縁結び・縁切り



持明院の「縁切り廁」(向かって右)

用にあつたのですが、境内整備のために取り壊されてしまいました。現在も縁切り信仰の対象としては奥の院の隅にひっそりと存在する「縁切り夜叉」があります。「縁切り廁」も元来はこの縁切り夜叉の信仰にもとづくものといわれます。

関西の場合、嫉妬に狂った鬼女を象徴する「橋姫神」「夜叉神」に縁切り祈願したということは、これら鬼女の呪術的魔力が縁切りに効果的と考えられたからにちがひありません。このように関西では、縁結び・縁切りが同格で、両方の願いが同時に一か所で叶えられたのは、縁切りの効用が縁結びと同等に重要な機能を担っていたことの証明といえます。

「縁切り」の語が、関東では、夫婦・親子などの親族や友人などの人間関係の縁切りという狭い意味にもっぱら用いられたのに対して、関西では、悪い病氣と縁切り（快癒）、性悪な奉公人との後腐れなき縁切り（解雇）など、諸悪との縁切りと、より広義に用いられていた点も注目しておかなければなりません。

現代版「縁切り廁」の発想

これらのことをふまえて、開館にむけて留意したことは、どうしても一万人を超える入館者を迎えることでした。それには、まず若い女性をターゲットにすることを第一にすることでした。そこで前号でもふれましたように、私は第一回目の会議で、女性週刊誌の切抜きなどを用意して現代版「縁切り・縁結び廁」を提案しました。清水寺も持明院も一か所で縁切り・縁結びが叶いますが、縁切りと縁結びを祈願するには別々に二度お願いしなければなりません。そこで一つの空間（場所）で、同時に叶える、二つならんだトイレの案です。会議の雰囲気は冷笑を含んで決まっていたものではありませんでした。もっとも消極的だったのは、建築設計を担当する事務所の幹部たちでした。しかし、資料館へのリピーターになつてもらい、一万人達成のためには、これくらい思い切った発想でないとならぬと力説し、結局、その趣旨に賛同してもらったのです。

最終的にもっとも熱心だったのは設計事務所、館の重要施設である収蔵庫をつぶして「縁切り・縁結び廁」ができたのです。トイレの色は「白と朱」を注文しておきました。悪縁を切って白紙にもどす、



資料館の「縁切り・縁結び厠」とお札

良縁と朱（赤）い糸で結ばれている、という意味を込めたのです。ところが、できあがってみたら白・黒でした。資料館が黒と白とグレイの建物であったこと、特注の朱の便器は相当に高額な故でした。もう一つ問題が指摘されました。当初、このトイレは実際に使用してお願いするつもりでしたが、女性の場合、たとえば、右の白いトイレで夫と別れたい用をたし、一時止めて、つぎにあの人と結ばれたいと左のトイレに移ることは生理的にきわめて困難だということでした。そこで急きよ特殊な水溶紙に願い事を書いて流すことにしました。しかも「縁切り・縁結び札」をカバーに入れて、一セット五〇〇円（今はお志）で販売することにしたのです。カバーの内側には、持明院・清水寺の「厠」を紹介し、つづいてつぎのように説明しています。

こうした昔からある縁切り俗信を、現代によみがえらせたのが当資料館の縁切り・縁結び厠で、一か所で縁切り・縁結びがかなえられます。右の白が縁切り用、左の黒が縁結び用です。：（中略）
：（物事の）白黒をはっきりさせて、自分の人生を一步前進させていたきたいものです。
と。最初から白黒だったように書いています。そして「世の中のいろいろな悪縁と縁を切ることが幸せにつながります。その意味では、縁結びよりも縁切りの方が大事だともいえます」として、見本を示しています。

独身と縁切り↓良縁と縁結び
悪夫・悪妻と縁切り↓幸せな再婚と縁結び
認知症・寝たきりと縁切り↓ポックリと縁結び
不合格と縁切り↓志望校・大学合格と縁結び

交通事故と縁切り↓無事故・安全運転と縁結び
肥満と縁切り↓○○kgと縁結び

このほか、いじめ、借金、酒・タバコ・ギャンブルなど、いろいろな縁切りが考えられます。ちなみに縁切りの日は巳の日、縁結びの日は卯の日で、これは持明院をまねたものです。「縁切り・縁結び札」は電話・ファクス・インターネット（後掲）から申し込みます。返信された札は、館長だけが開封し、プライベートシー厳守の上で、お流ししています。

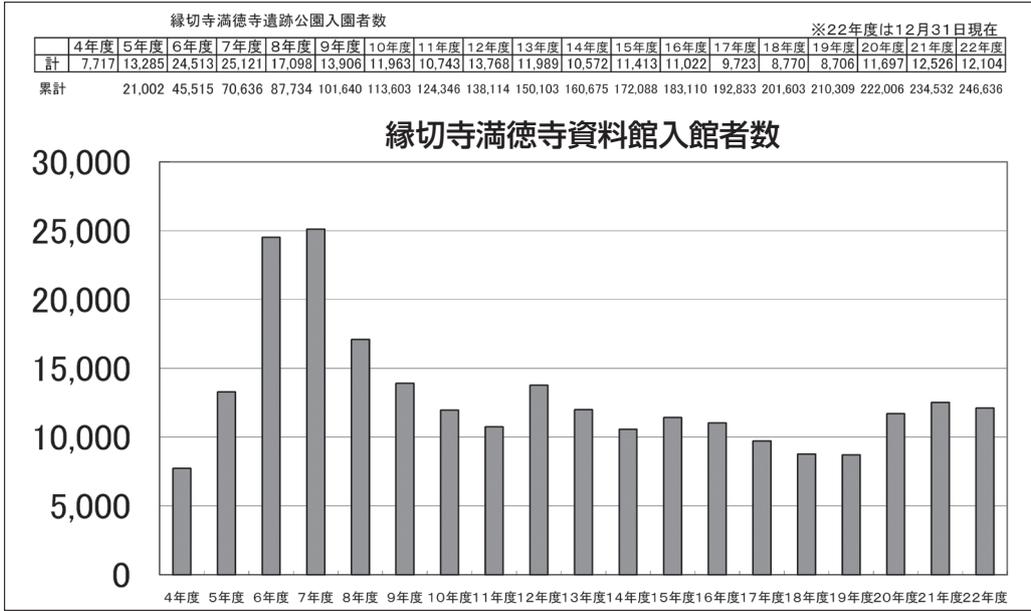
入館者の推移と厠の貢献

—メディアの取材—

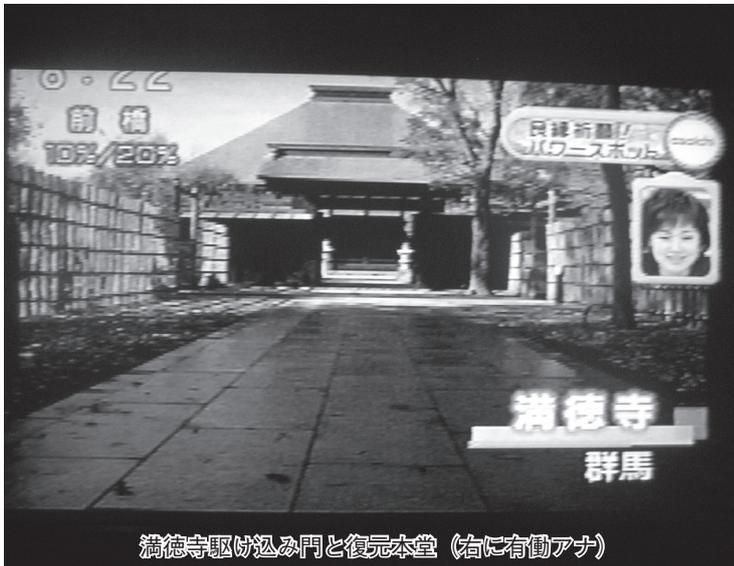
さて、一万人を目指した入館者はどのように推移したでしょうか。そのグラフを次頁に掲げました。平成十七年度にはじめて一万人を切り、それが三年間続きました。なんとかしなければと職員と協議した結論は、原点に立ち返り、企画展を充実させることと、広報活動を地道に行うことでした。あらゆる機会に市の記者クラブに情報提供いたしました。二十年度から一万人を確保し、二十二年度は十二月二十六日までに一万二千人余りで、おそらく一万四千人を超えるものと思われまます。

とくに「縁切り厠」に関して、昨年はメディア・テレビの取材を数多く受けました。NHK前橋放送局の若い女性記者がハンディカメラで取材したものが、総合テレビ一月十八日午前十一時過ぎの「こんにちは・いっと6けん」で放映されました。これをロイター通信の記者がみていて、二月二十四日に取材、CBSで全世界にむけて放映されました。今でもユー・チューブの動画サイトへ、アクセスして、

(4年度は実質5か月、22年度は12月まで)



ローマ字で mantokutsu と入力すると、広告が三十秒、そのあと一分三〇秒ほど、放映されます。さらにドイツ公共テレビ（ドイツのNHK）、その後、韓国 KBS でも取材・放映されました。そのせいで、韓国人夫婦が来館され、初の外国人として札を流されました。



NHK総合テレビでは、九月二日ゴールデンタイムの新感覚ゲーム「クエスタ」のご当地クイズで取り上げられました。また今春には、BSハイビジョンで、一月三日午後六時から「新日本風土記」スペシャル「縁を結ぶ国につぼんー列島縦断パワースポットの旅」でも紹介され、さらに再編集され、翌四日総合テレビの「あさイチ」でも、紹介されました。

さて、なぜ廁（トイレ）に注目したのかといえば、生命のサイクルで、食事と排泄は最も重要なことで、食事を作る竈（かまど）、排泄のための廁（トイレ）には、

高木 侃 (たかぎ・ただし)

【プロフィール】

1942年生。中央大学大学院法学研究科修士課程修了後、関東短期大学教授をへて、現職。国際日本文化研究センター客員教授等歴任。満徳寺の研究で法学博士。主要著書に『増補 三くだり半-江戸の離婚と女性たち-』（平凡社ライブラリー）、『縁切寺満徳寺の研究』（成文堂）、『三くだり半と縁切寺-江戸の離婚を読みなおす-』（講談社現代新書）などがある。

いずれにしても、この時期、合格祈願に「受験生よ来たれ」です。(二月九日記)

TEL: 0276 (52) 2276
 FAX: 0276 (52) 5311
 mantokutsu@kl.wind.ne.jp

古くから神が宿るといわれています。竈神・廁神です。県内にはお七夜に赤ちゃんを抱いて産婆さんが近所のトイレをめぐって歩き、丈夫に成長することを祈願する風習もみられます。このようなトイレのパワーとかつて縁切寺だったこの寺の「縁切り」のパワーが、重なりあって強力な威力を発揮するからです。今後も廁と縁切寺のパワーに期待し、入館者の増加につなげたいと考えています。

なお、職員はN君は鉄道マニアで、出かける先々、たとえば、銀座のぐんまちゃん家、大阪・名古屋の群馬県事務所パンフレットを置いてくるなど、隠れた地道な努力も忘れられません。

上野東歌探訪

北川和秀

一九五一年生。学習院大学大学院人文科学研究科国文学専攻博士課程修了。

同大学助手を経て、一九八五年群馬県立女子大学文学部専任講師。現在は同大学教授。専門は上代文学。主な著書に『続日本紀宣命 校本・総索引』『群馬の万葉歌』など。

昨年の平城遷都一三〇〇年に続き、今年は「上毛かるた」に「昔を語る多胡の古碑」とよまれる多胡碑建碑一三〇〇年に当たる。それを記念する講演会や展覧会などもいくつか企画されている。節目の年にあたって、群馬の古碑にも人々の関心が集まり、その価値が広く知られるように願っている。本連載もそのような意味合いから、今回は多胡をよんだ歌を取り上げ、あわせて多胡碑や多胡郡についても少し触れることにする。

上野国東歌に多胡をよんだ歌は二首ある。今回はそのうちの一首をよむ。

一、歌の解釈

吾が恋は現在もかなし草枕多胡の入野の将来もかなしも（三四〇三）

安我古非波 麻左香毛可奈思 久佐麻久良 多胡能伊利野乃
於久母可奈思母

私の恋は今も切ない。そして（多胡の入野の奥ではないが）将来も切ないことだ。

「まさか」の「ま」は目、「さ」は方向、「か」は所の意で、「まさか」は、「まさか」に「こ」「さ」しあたっての今「現在」。万葉集に「さ百合花後も逢はむと思へこそ今のまさかもうるはしみすれ（さ百合花の名のように後に逢はむ逢おうと思ふからこそ、今の今もあなたと親しくお付き合いしている）」（巻一八・四〇八八。大伴家持）という例があり、この例では「後」と「今のまさか」

とが対比されている。

「多胡」は高崎市南部の地名。詳しくは節を改めて述べる。「入野」は山地に奥深く入り込んだ野。「いり」は「入江」や「入り海」の「いり」に同じ。地形図を見ると、高崎市吉井町多比良、吉井町神保、吉井町塩あたりに南方の山地に向かって低地が細長く延びているような場所がいくつかある。そういう地を「入野」と呼んだのであろう。

なお、かつて多胡の地に入野村があった。この村は昭和三〇年の町村合併で吉井町の一部となり、村名は消滅したが、今も入野中学校、入野小学校などに「入野」という名を留めている。しかし、この地名は、明治二二年に小串・黒熊・深沢・石神・中島・小暮・馬庭・岩井・多比良の九ヶ村が合併して新しい村ができたときに、万葉集東歌の「多胡の入野」が黒熊のあたりに比定されるという説を採用して新村名としたものである。この村名を根拠に東歌の「入野」を地名と考えたり、その具体的な位置を想定したりしては話が逆になる。

「多胡の入野の」は「おく」を導くための序。「おく」という語には、空間的な「奥」という意味と、時間的な「将来」という意味とがあり、この歌ではそれを懸けている。万葉集に、「おく」を「将来」の意味で用いた例はあまり多くなく、四例に留まるが、そのうちの三例までが東歌の例である（残る一例は大伴坂上郎女の歌）。中でも、上野国東歌の「伊香保の岨の榛原ねもころに将来をなかねそ現在し良かは（伊香保の峰の急斜面に広がる榛の木の間では、地中で根が絡み合って凝り固まっている、そのネモココではないが）ネモココに（こまごまと）将来のことを心配することはない。今さえ幸せならば）」（巻一四・三四一〇）という歌では、「将来」と「現在」とが対比されている点で、今扱っている歌と共通している。

「かなし」は、どうしようもないほどの痛切な感情を表す語。①「とても悲しい」「つらく切ない」という意味と、②「切ないほどにいたい」「かわいくてたまらない」という意味とがある。中央の歌では①の意味で使われることが多いのに対し、東国（東歌・防人歌）では②の意味で使われることが多い。ところが今回の歌では①の意味で用いられており、東歌としては例外的であり、問題となる。「かなし」については節を改めてもう少し詳しく述べる。

「草枕」は、通常は「旅」に掛かる枕詞。万葉集に四九例あるうち、四八例が「旅」に掛かっており、残る一例が「多胡」に掛かるこの歌の例である。なぜ「多胡」に掛かるのか分らない。「たび」と「たご」とでは、語頭の「た」が共通しているが、この枕詞は、草を束ねて枕にし、野宿を重ねつつ旅をするということ、で、「草枕 旅」と掛かるのであろうから、「た」のみが共通していることに意味を見出すことは難しい。

当時、「草枕」とくれば誰もが「旅」を連想したのであろうから、あるいは、この歌の作者は、この枕詞を用いることで、自分がこれから旅に出ることを暗示しようとしたのかもしれない。

ひよつとしたら関係があるかと思われる材料として「こもまくら」という枕詞がある。薦はいね科の植物で、茎や葉を編んで蓆などにした。薦も草の一種であるから、「くさまくら」と「こもまくら」とは意味的に重なる。そして、この枕詞は、「薦枕 高橋過ぎ」（日本書紀歌謡九四）、「風俗の説に、薦枕多珂の国といふ」（常陸風土記多珂郡）、「苦枕宝ある国」（播磨国風土記逸文）、「薦枕 いや 高瀬の淀に」（神楽歌「我妹子」）などと、「たか」に掛かっている。掛かり方は、薦で作った枕は高さがあってということで「薦枕 高」と掛かるのであろうから、やはり頭音の「た」に掛かっているわけではないが、「たご」も頭音が「た」であるという点が気になる。偶然の一致に過ぎないのか、あるいは何か意味があるのか、さらに考察してみたい。

二、「かなし」について

「かなし」は、現在では「悲しい」という意味で用いられるが、上代においては、意味がもっと広く、①「悲しい」「つらい」の他に、②「いとしい」「かわいい」

という意味でも使われた。要するに、どうしようもないほどの痛切な感情を表す語だったのである。たとえば、「神さぶる磐根こしきみ吉野の水分山を見ればかなしも（神々しい岩がごつごつした吉野の水分山を見ると、何とも言えないほどの強い感動を覚える）」（巻七・一三〇）という例は、「悲しい」「つらい」でもなく、「いとしい」「かわいい」でもない。まさに「どうしようもないほどの痛切な感情」という意味で用いられている。

万葉集に「かなし」はちようど二〇〇例ある。そのうち、今示したような①でも②でもない例は三例ある。今回問題にしている歌に二例用いられている「かなし」もひとまず除外すると、残りは九五例。それらを、東国の歌（東歌・防人歌）とその他の歌（あらかたは畿内の人々の作と考えられる）とに分けて、その用法を示せば次の通りである。

- a 東国の歌……①の意味 三例（八％）、②の意味三五例（九二％）
- b その他の歌……①の意味五二例（九一％）、②の意味 五例（九％）

東国の歌とその他の歌との間にはこれだけ顕著な違いがある。もともと、東歌はあらかた恋の歌であるから、「いとしい」「かわいい」の意味で多く用いられる傾向はあると考えられるかもしれない。ただ、東歌唯一の挽歌「かなし妹を何処行かめと山菅の背向に寝しく今し悔しも（いとしい妻がどこへも行くことはあるまいと背中合わせに寝たことが今悔まれる）」（巻一四・三五七七）でも、「かなし」は「いとしい」の意で用いられている。やはり「かなし」の意味用法に地域差は厳然として存在するとみるべきであろう。

なお、東国の歌の中で①「悲しい」「つらい」の意味で用いられている三首はいずれも防人歌である。東歌に限定すれば、東歌では「かなし」を①「悲しい」「つらい」の意で用いた例は見当たらない。そういう点で、今回問題にしている「吾が恋は現在もかなし草枕多胡の入野の将来もかなしも」の歌は極めて例外的な存在ということになる。そこで、この歌の初句の「恋」を「恋人」の意味にとつて、「私の恋人は今も愛しい。そしてこの先もずっと愛しいことだろう」と解する説がある。こう考えれば、この歌の「かなし」の意味は東歌の例に叶うが、万葉集には「恋」という語を「恋人」の意に用いた例がないことが難点

となる。

ひよっとしたら、この歌の作者は東国人ではなく、都から下ってきた官人かもしれない。そういう目で見ると、この歌には東国方言とおぼしき語は含まれていないし、歌も非常に技巧的である。可能性は高いのではあるまいか。

三、多胡碑・多胡郡

多胡碑（七二一年）は、現在の高崎市吉井町池の地にある。栃木県の那須国造碑（七〇〇年）・宮城県の多賀城碑（七六二年）とともに日本三古碑の一つに数えられ、また、県内の山ノ上碑（六八一年）・金井沢碑（七二六年）とともに上野三碑の一つとして知られる。その碑文を示す。

弁官符上野国片岡郡緑野郡甘良郡并三郡内三百戸郡成給羊成多胡郡和銅四年三月九日甲寅宣左中弁正五位下多治比真人太政官二品穗積親王左大臣正二位石上尊右大臣正二位藤原尊

この文章は、例えば次のように訓読される。

弁官の符に、「上野国の片岡郡・緑野郡・甘良郡、并せて三郡の内三百戸を郡と成し、羊に給ひて、多胡郡と成す」とあり。和銅四年三月九日甲寅の宣なり。左中弁は正五位下多治比真人、太政官は二品穗積親王、左大臣は正二位石上尊、右大臣は正二位藤原尊なり。

この碑文の内容と重なる記事が『続日本紀』に見える。

上野国甘良郡の織裳・韓級・矢田・大家、緑野郡の武美、片岡郡の山等の六郷を割きて、別に多胡郡を置く。（和銅四年三月六日条）

両者の日付に三日の差があるが、それ以外は、この二つの文章の内容に食い違う点はなく、相互に補い合うような内容となっている。二つの文章の内容を

合成し、一部修正すれば、和銅四年（七二一年）三月、上野国甘良郡から織裳里・韓級里・矢田里・大家里という四里（当時、「郡」の下の行政単位名は「郷」ではなく「里」であった。続日本紀に「郷」とあるのは、後世の名称を反映させたもので、和銅四年当時の名称ではない）、緑野郡から武美里、片岡郡から山里の計六里、三百戸を分割して、新たに多胡郡を設置したという内容になる。多胡碑は、その建郡の事情を記した記念碑と位置づけられるであろう。文章は正格の漢文ではなく、語順などはかなり日本語のそれに近いものとなっている。新しい郡ができたのを記念する碑だとすれば、碑を建てた者としては初代郡司あたりがまず想定できよう。碑文中、「給羊」という部分が難解で、「羊」を「群」



多胡碑



多胡碑の覆い屋

や「祥」の省略字とみる説なども含め、諸説紛々としている。私に成案はないが、碑を建てたのが多胡郡の初代郡司であるなら、「羊」はその郡司名とみてよいのではないか。もちろん、郡司に任ずるということは、その土地を個人に与えるということではないが、中央官人が交替で着任する国司と違って、郡司の場合はその土地の豪族（国造など）が任命され、任期も終身であったことなどから、当人達にしてみれば、実質的にその郡を給わったという意識だったのではあるまいか。



続日本紀に記載されている六つの里の位置は、おおよそ今のどこに当たるか、ある程度推定できる。織裳は、高崎市吉井町長根に折茂という小字があるので、そのあたりと考えられる。韓級は、吉井町神保に鎮座する辛科神社をその遺名とみることができ。矢田は、吉井町矢田付近と考えられる。大家は、その名称から察するに、郡役所の所在地と考えられる。多胡碑のある吉井町池には御門みかどという地名もあり、附近に大宮神社という名の神社もあるので、そのあたりとみてよからう。武美は、手掛かりとなる地名が現存しないが、この里は多胡郡の東隣の緑野郡から分割されたのであるから、多胡郡の西隣の甘良郡から分割された織裳・韓級・矢田・大家よりも東に位置するとみるべきであろう。そういう点から、吉井町黒熊・吉井町小串やその周辺が候補地となる。

最後の一里は、「山」である。平安時代前期の百科事典『和名類聚抄』には、

上野国多胡郡に属する郷を「山字 織裳 辛科 大家 武美 浮囚 八田」と列挙している。このうち先頭の「山字」には万葉仮名で「也末奈(やまな)」という訓が付いている。ここには平安時代の高山寺本という写本の本文を示した。江戸初期に刊行された校訂本の本文では、この郷は「山宗」と表記され、同じく「也末奈」という訓が付いている。「山宗」を「やまな」と訓むのは困難であるから、「山宗」は「山字」または「山奈」の誤りと考えてよからう。「字」であれば、たとえば「仮字」と書いて「かな」と訓むなど、「な」と訓める。吉井町黒熊の奈良時代の寺院跡とされる遺跡からは「山字乙種目」という文字のある瓦が出土しており、また正倉院御物にも「上野国多胡郡山那郷」という墨書銘が存在する。こういう史料を考え合わせると、続日本紀の「片岡郡山等」は、本来は「片岡郡山字等」あるいは「片岡郡山那等」などとあったものが、書写の過程で「山」のあとの一字を書き落としたものと思われる。場所は高崎市山名町がその遺名と考えられる。

多胡碑の文中で、言語生活史の資料として興味深いのは、「石上尊」「藤原尊」の「尊」の字である。この字は「みこと」と訓むのであろう。日本書紀では、登場する神名に二つのランクをつけ、特に尊い神を「尊」、それ以外を「命」と表記し、どちらも「みこと」と訓むという注記がある。これをそのまま当てはめれば、多胡碑では、左右大臣は特に尊い神と同等の待遇をされていることになる。確かに、都の大臣は雲の上の存在であつたらう。しかし、時代は奈良中期まで下るが、正倉院文書には手紙のあて名に尊称字として「尊」の字を使つたものがいくつも見える。たとえば、上馬養かみのうまひという人が吉成という人に宛てた手紙の宛名には「謹上 吉成尊者」とある。この「尊」字はさしづめ現代の「様」に当たるものと見ることができよう。「石上尊」「藤原尊」も神様扱いというほどではなかったものと考えられる。

【付記】前号に載せた伊香保の方葉歌碑地図は、クレオ社の電子地図「プロアトラス」を白地図として作成したものでした。その旨、明記せず、またクレオ社にも許諾を得ていませんでした。発行後、そのことの不適切さに気づいて、クレオ社に謝罪し、遅ればせながら許諾をお願いしたところ、学術的な内容であるということも考慮の上、大変寛容な措置として掲載の許諾をいただくことができました。クレオ社には大変に感謝しております。今後、著作権には十分に留意し、このようなことのないよう、気をつけます。

財 群馬県教育文化事業団高等学校等奨学金制度紹介

群馬県教育文化事業団では、学ぶ意欲のある生徒のみならず、経済的理由で進学・修学を断念することのないよう、貸与型の奨学金制度を実施しています。詳しくは、学校の先生や当事業団へお気軽にご相談ください。

申込窓口		在学する高等学校等（予約募集は中学校）			
内 容		学力等に優れた生徒で経済的理由により高等学校等での修学が困難な者に奨学金を無利子で貸与（旧日本育英会が実施していた高校奨学金）			
対象（申込ができる人）		<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校 ・中等教育学校の後期課程 ・特別支援学校（高等部） ・専修学校（高等課程） に在学している者			
貸与額	月 額	国公立	18,000円(自宅外23,000円)		
		私立	30,000円(自宅外35,000円)		
貸与額	入学一時金	国公立	50,000円		
		私立	100,000円		
募集人数(予定)		150人程度			
区 分		予約採用	定期採用	緊急採用	特別緊急採用(時限措置)
申込時期(予定含む)	中学3年時	11月			
	高校等在学時		4月	随時	随時
採用要件	学力要件等	中学の評定平均3.5以上	高校の評定平均3.0以上	勉学意欲があり、修業見込みがあると学校長が認定した者	
		※学力要件に満たない場合には、特例推薦の制度もあります。			
	経済要件	事業団が定める収入基準額以下(4人家族で両親の年収合計が約7,900千円以下)		1年以内に緊急に奨学金を必要とする事由が発生した世帯	6ヶ月以内に会社の倒産や解雇等により家計が急変した世帯
	連帯保証人	親権者等1名及び別生計者1名		親権者等1名	
金 利		無利子			
返還(返済)期間		6年～14年(貸与金額により決定)			
大学等進学時の返還猶予		毎年4月に手続きを行うことにより、卒業まで可能。			

問い合わせ先：財群馬県教育文化事業団奨学金課（日・月・祝は休み）TEL：027(243)0411 [直通] 027(224)3960

熊野古道を歩く

群馬県文化協会連合会 会長 樽井 哲

私が熊野古道を歩いてみたいと思ったのは、熊野古道が平成十六年に世界遺産リストに登録されたということ、平安時代に熊野御幸と呼ばれる後白河上皇の三十三回の御幸に見られるように皇族の熊野詣でが盛んであったことなどで興味を持ったからであります。皇族の熊野詣でが絶えた後は、武士や農民をはじめ一般庶民による熊野詣でが盛んに行われました。熊野信仰の大きさを示すものとして、熊野三山の末社である熊野神社は全国で三千社以上あるとされています。

熊野三山と言われているのは、本宮大社・速玉大社・那智大社のことで、この大社に詣でる道は、紀伊半島の海岸沿いで、大阪からの道が紀伊路と大辺路、伊勢からの道が伊勢路、内陸の道で田辺からの道が中辺路、高野山からの道が小辺路、吉野山からの道が大峯奥駈道、那智大社から本宮大社までの道を大雲取り越え・小雲取り越えと言われています。

私が最初に歩いたのは、紀伊路の一部で、海南市の駅から道成寺までです。一泊二日の歩きでした。それほどのもあるまいと思いましたが昔の人の足の強さを思い知らされました。

熊野古道には話として残されている場所が多くあります。このコースの道成寺の安珍清姫の話は良く知られています。また、このコースの始めの所の藤白坂には、万葉集での歌がよく知られている有馬皇子の墓があります。有馬皇子は、孝徳天皇の皇子で、斉明天皇のとき、皇位争いから反感を企てたとして天皇の行幸先の湯崎温泉につれて行かれ、尋問の上、藤白坂まで連れ戻され絞首されました。十九歳のときとされています。そのときの歌が万葉集の挽歌のところに二首出ています。「磐代の浜松が枝を引き結び眞幸くあらばまた還り見む」と「家にあれば筍に盛る飯を草枕旅にしあれば椎の葉に盛る」で、自分の身の上を悲しんだ歌です。

熊野古道を歩きの二回目は、熊野速玉大社、熊野那智大社から熊野本宮大社まで、三回目は、高野山から熊野本宮大社まで、いずれも骨のある歩きでした。

熊野古道は、世界遺産として認定されていることから分かるように、昔の人々の生活を感じさせるものや熊野信仰の根源とされる大自然をそのまま残しており、深い思いで歩いた道でした。次回は中辺路を歩いてみたいと思っており、そのときを楽しみにしています。



伝統について

— 思いつくままに —

過日、春一番という報道があつて、日中は春めく日が続く中、朝はまだ池に薄水が張り農家は野菜が育たぬと言っている。春三月は弥生とも言うが、その呼称は旧暦でのこと、実際は三十数日内外の隔たりがあり、旧暦では二月のなかばに至っていない。このずれの一事でも昔と今とでは伝統に断絶がある。かの西行法師の入滅は文治六年二月十六日だが、新暦になおせば西暦一九〇九年三月三十日、弥生の晦日であり、有名な寂滅予告の歌も、如月望月のころは関西では桜の咲く頃なのである。現実のわれわれのすべては過ぎ去りし時の経過の上に成り立っていて、その礎石なる僅かな小石さえ仇や疎かに扱えぬはずであるが、いまを生きている身には過去にかかわらず暇などなく、時のながれの波間に漂っているかのようなのである。

昨年五月、かつて私の卒業した群馬県立前橋高等学校の前中前高同窓会が、その同窓会の創立百周年記念事業の一環として主催行事の開催を決め、旧制前橋中学出身の画家らの作品を集め、展覧しようということになって、私のところに企画案作成の依頼があつた。私なりの考えに基づく原案を数日後提出したが、ほぼ原案通りの内容での開催ということになった。私なりの考えという詳細をここで述べるつもりはないが、展示作品の六〇点のうち五〇点は個人蔵であつて多くは長く個人宅にて愛蔵されていたものである。

展覧会は昨年十二月十六日より同二十六日まで十一日間、前橋元氣プラザのホールで行われたが、さかのぼつて五月の行事開催の決定以降、私なりの考えに基づく作品集が始まった。半年間にわたるこの作品集の作業はいろいろなことを、田のすみずみに水がわたるように、霧がはれて森が現れるように十分に教えてくれた。まずこの百年の近現代をみれば、明治大正昭和があつて、平成の此の世があるという平明な事実をあらためて意識させられ、作品を通して色彩、ディテール、ヴァルール、コンポジション等、その全体から画家らの生きた時代の思潮ないし本人の思いなども感得できたのである。驚くべきことであるが敢え言えば生の作品の力というものはそのようなところにあるのである。展示した作品群のそれぞれに、作品の所在の情報を得、初見の出会い、目を皿のように微細に見て、所蔵者のお話を聞き、出品の快諾ないし承諾を得るなかれの中に、たくさんのおいまいや思い出となる挿話があり、またエポックと言えないまでも注目すべき出来事として、借り受けた作品群中に、前橋中学出身ではない岸田劉生の門下一番弟子たる椿貞雄の作品が一点紛れていることがあつたりした。そのことを会期半ばに然る方から指摘されたことなども、思えば偶然とはかりそめにも言えぬ因縁を感じたりしたのである。

椿貞雄は戦時中昭和十九年ごろ、前橋に一時疎開

していたらしい。春陽会の創立メンバーの一員たる椿貞雄が、同じくその会員であり草土社の仲間である前橋中学出身の横堀角次郎や、同じく会員の南城一夫を頼つたのかも知れず、木村莊八ないし中川一政も関与していたかも知れない。ちなみに私の父、川隅路之助は当時木村莊八の画談会にいて春陽会教場に通い、昭和十八年第二十一回春陽展に「貝殻」五〇号が入選し、以後出品し続けたが、東京大井より前橋に疎開したのは昭和二十年になってからである。

話が横に逸れたが、いま述べた草土社の横堀角次郎は明治三十年大胡町に生まれ、同じ酉年生まれの前橋中学出身の仲間磯部草丘と森村酉三がいて、昭和十六年に酉三の名をひっくり返したような同じ千支の三人という意味でと思うが三西会という会を



磯部草丘 上毛山河 個人蔵



森村西三 青銅置物みみづく
個人蔵

結成している。三人は終生仲が良かったようだが森村西三がリーダー格であったようである。その森村西三の青銅立体の青銅置物の小品「みみづく」に初めて出会ったときの印象を少し話してみたいと思う。森村西三のことを私はよくは知らない。一昨年、群馬県立近代美術館で開催された「群馬の美術一九四一〜二〇〇九」群馬美術協会結成から現代まで」展において展示された青銅置物と梅花透文水盤の二点を目撃にはじめて見た程度である。そのときは昔のものが作風がシンプルで現代的だなと感じた。きわめて好感度、好印象をもったのである。そして今回「みみづく」を見て、手にとつて、つくづく眺めつくして、そのシンプルさと現代的な持味に感じ入ったのである。縦長の桐箱の蓋には「鑄金西三作青銅置物みみづく」また蓋裏に「盟友草丘題」と箱書きされていた。初見の日はそこで終わった。十二月に入り展覧会が近づいたころ、一時自宅に預かったが、それはそれはつくづくあらためて眺めつくしたものである。このような機会を与えてくれた天に感謝した。古さの中に新しさがあり、良き伝統のようなものがシンプルで現代的な形象のなかに息づいていると直感した。また、そのような作品を長

く所蔵している旧家がこの前橋にあることにも感動を覚えたのである。こういうものを身体の一部のように愛蔵しているというところは素晴らしいことだと思ふ。身近に呼吸しているがごとく作品と一体である。その感覚こそ伝統に違いない。伝統は人の意識の中にあるのだろうか。……はじめに述べたが、この展覧会に出品の作品の多くは個人蔵のものであり、それぞれ同様の感動や挿話のあったことを申し添えておきたい。展覧会の前夜、我が家はさながら美術館の倉庫であつた。

年明けて一月が過ぎようとした頃、私はみどり市の大間々図書館に向かっていた。ある絵を再見するためにである。その絵を描いた歌人でもある人は平成五年の五月に、少し前三月に先立つた私の父のあとを追うように亡くなったが、その人の回顧展がたしか信濃毎日新聞のビルで行われたときに、はじめ見た絵をまたこの目にじかに確認したいがためであつた。その絵はたしかにそこにあつた。ただ十七年前に見たときはもう少し小さかつたような気がした。少し違うようにも見えた。

旅姿をした西行法師の立出の図である。桜が咲いている。庵をあとに、笈を背負い杖を右手に笠を左手にはるか旅の空を想って立ちすくしている。その目は何を見ているのか。きつと彼の世を見ているのに違いない。そう、これは黄泉の国への旅立ちの図である、はじめて見たとき直ぐにそう思ったことも、つい昨日のことのようである。この絵によつて西行は私にとつて身近なものになった。また、この絵の西行の面立ちは、松本市に転居するまでごく身近にあつたその人の顔に似ている。それも親近感を



遠藤燦果 西行旅立ち みどり市所蔵

増幅させた。私は西行をより深く知りたく思うようになっていた。その人の名を遠藤燦果という。大間々の人である。

虎は死して皮をとどめるといふが画家は死して絵を残すということになるか。ありがたいことである。本人の思いのないしその生きた時代の思潮などは残された作品の中から滲み出て見る人を浸す。この過去の思いなり思想は断絶することがあつてはならない。そのため古典を学び享受する必要がわれわれにはあるはずである。ここまで、思いつくままに、伝統についてまとまりのないことを述べてきたが、分かり易く言えば、努力しなければ伝統はその人のうちから失われるということである。

川隅俊郎

一九四九年 前橋生まれ
前橋高校卒 中央大学法学部卒
会社勤めを経て、ギャラリーかわすみ設立。
現在に至る。



カフエの隅から

さくらめーる

竹田 朋子

私のふるさととは、長野原町の川原湯である。

川原湯の冬は寒い。山懐に抱かれており陽があたらない。一月、二月はまるで冷蔵庫に入ったように体の芯から冷える。それでも二月半ばになると、雪景色の中に微かな光の春を感じられる。父はこの時季になると、ボイラーの煙突の一点を指し、「ほら、もうここまで陽ざしが伸びてきた」と、ちょっと自慢そうに言ったものだ。

それを受けて私も「さあ、そろそろ今年も書き始めようかしら」と、弾む心で郵便局に向かう。「さくらめーる」を購入するためである。年賀状や夏のかもめーると共に、春の使者、「さくらめーる」を知友に書き送るのも大切な年中行事のひとつなのだ。淡い色彩の桜の図柄のそれに、春の俳句を添えてしたための作業は、春が真近に感じられ、浮きたつような楽しさがある。

その年も足取り軽くそこに待っていたの。さくらめーるは、した」と、すまなそうのことばだった。あれだろうー。私たち家族を離れた。

その翌年のある日のことが、何やらおもむろに小さな袋を手渡し、「開けてみて!」とおっしゃる。そっと覗くと、中には紅茶とチョコレート、そして何と、未使用のさくらめーるが入っていたのだ。このはがきに寄せる思いを書いた拙文を読まれてのことである。「これ一枚だけ残っていたの。私もさくらめーるが大好きだったわ」いつも穏やかな笑顔を絶やさないTさんは、そんな大切なとっておきを、私にくださったのだ。胸がいっぱいになった。淡い黄色と薄緑のぼかしの地に、白ピンクの桜の花びらが風に、水にたゆたうごとくに舞っている。ああ、そう、このやっと生まれ出たようなはかなさに、春を感じていたのだ。

もうすぐ、本格的な桜の季節。

川原湯のあの桜も、ここ中之条のあそこの桜も、共に吾妻の空気と光を受けて、それぞれの花を咲かせるのだろう。



郵便局に出向いた。が、は、「申し訳ございません今年から廃止になりましておっしゃる局員さんから何年後のことだっは、住み慣れたふるさと

こと。お隣に住むTさん

竹田 朋子 〈略歴〉

長野原町出身／群馬ペンクラブ会員
散文誌「せせらぎ」同人／短歌誌「遠天」同人
第55回「日本随筆家協会賞」受賞／第46回群馬県文学賞受賞
著書『風の吹く道』

レストラン 伊万利ダイニング

前橋市文京町 2-20-22 群馬県生涯学習センター別館 TEL : 027-224-1693



群馬県・伊香保温泉



政府登録国際観光旅館
ホテルチェーンホテル加盟店
群馬県渋川市伊香保町396-20
予約直通 **Tel.0279-72-4489**

東京営業所 東京都台東区東上野6-10-7金子ハイツ503 〒110-0015
Tel. 03-3843-0083

埼玉営業所 埼玉県さいたま市中央区下落合4-23-10-101 〒338-0002
Tel. 048-856-1660

●料理茶屋 湯の花亭
上州四季の懐石



春
夏
秋
冬
味わいの旅
— 四つの食事処で料理が選べる

アハマン・土地建物・
店舗事務所・土地活用



ペット可



株式会社 藤田ビジネスプロモーター

<http://www.h3.dion.ne.jp/~fbp>

前橋市問屋町一丁目1番1号 027-251-4455(代)

資産運用のご相談は、群馬銀行へ！



あなたの夢、応援します。

群馬銀行

<http://www.gunmabank.co.jp/>



編集後記

◇ 週一回、仕事帰りに気に入った喫茶店に入る。新聞を読む。本を読む。愛用の手帳を眺める。「モカ」を飲む。そうしていつきをポーっと過ごす。

【人間は、だれでも“自分だけの三畳間”を用意しておくべきだ】(モンテ・ニユ)

◇ まもなく大地の草が萌え出し、万朶の桜が開く。一期一会の花に期待は募るばかりだ。(NK)

◇ 本誌希望の方は、送料(140円×希望回数分の切手)を添えてお申し込み下さい。また、ご要望ご意見等もお寄せください。

© 財団法人 群馬県教育文化事業団
(本誌からの無断転載、コピーを禁じます。)